京城日報

内閣の勢揃

（一）

[illegible]

貴族の聲

英國上院と愛蘭問題

[illegible]

同情

[illegible]

座右銘（三）

[illegible]

神仙爐

劍花坊

一人角力（一）

[illegible]

朝鮮川柳漢表

劍花坊選

[illegible]

詠史川柳を募る

[illegible]

▽ピアノオルガン　▲山口樂器店　京城本町二丁目長谷川商店内

陽天覽台覽

二松學舍　二松學舍出版部

漢文講義錄

日本人は誰でも漢文の素養を有する、本講義錄は居ながらにして漢文の素養を得る最好機會なり

一松學舍は明治十年文學博士三島中洲先生が創立せられ中洲先生の門人が肝胆を注ぎて教育せる大家の講義を掲載するよりもハツキリと口頭に入るなり

一松學舍は明治十年文學博士三島中洲先生が創立せられ中洲先生の門人が肝胆を注ぎて教育せる大家の講義を掲載するよりもハツキリと口頭に入るなり

二松學舍

[illegible]

法人登記

[illegible]

▲自動車飛行機運轉手生徒募集

▲內鮮人男女不拘

▲學資金貸與ノ便アリ

▲學期日每月一日

▲學業期間二ヶ月

朝鮮自動車飛行機學院

[illegible]

商業登記

[illegible]

開城支廳

[illegible]

楊口出張所

[illegible]

▲大阪市南區[illegible]

[illegible]

▽ロマノフ紙幣一留六錢　單位百留

▽ケレンスキー紙一留四錢　單位貳百五十留

▽代金は振替貯金又は爲替

▽代金引替は手附金參割の事

▽現品は金着順書留にて送付致候

[illegible]

公債株式現物賣買信託金融部

コトブキ屋株式店　外國貨幣部

[illegible]

東京市日本橋區北島町一ノ廿二

[illegible]

▲定期市場建株に限り金融の便相計り可申候

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

獨賠償と聯合國

賠償し得る程度に於て

獨講和條件中最も重要なる問題は賠償問題にして巴里に於ては同問題に就き委員會を開きたるが講和條約の規定に依り明年五月一日より聯合各國は獨逸政府に提示し要求すべき順序となり居れるが聯合各國中には明年五月を待つ能はず漸かに賠償金の分を受けたき希望を首相會議に提議したるものあるを以て近く ブラッセルに於て聯合國賠償委員會を開催し獨逸賠償金要求額に關し審議することゝなり居れり獨逸は明年五月一日賠償金の要求を受けたるより向ふ二十ケ年に右賠償額を全部償還せざるべからず聯合各國の要求額は目下各國に於て調査中なるが勿論莫大なる額となるべし然れども獨逸の主要なる鐵山鑛山機關車等の諸機關は總て聯合國の手に獲得管理せられ居るのみならず獨逸の經濟狀態は今後數年間到底恢復なるべきを以て聯合各國が如何に巨額の要求をなすも獨逸に負擔能力なきに於ては何等得る所なかるべきを以て獨逸の經濟狀態に鑑み賠償し得る程度の要求額を決定すべしとの議論聯合國間にあり英國はブラッセル會議の重要なる問題ならべし(東京電報)

條約交附と猶豫

匈牙利態度決定期

其筋著電＝匈牙利講和條約文は五月二日國委員を巴里に召し三日調印交換したるが匈牙利の要求に基き十日間の猶豫を與ふることゝなりたり(同委員は本國との往復に數六日を要するを以て更に十日間の延期を要請せるに依り同地會議は考究の上更に五日間の猶豫を許容し五月廿一日附條約に對する匈牙利の態度を決定すべきことなり(東京電報)

聲を震はして承引

對土條約正文交附

既電の如く對土講和條約文は五月二日國委員を巴里に召し三日調印交換したるが匈牙利の要求に基き十日間の猶豫を與ふることゝなりたり(同委員は本國との往復に數六日を要するを以て更に十日間の延期を要請せるに依り同地會議は考究の上更に五日間の猶豫を許容し五月廿一日附條約に對する匈牙利の態度を決定すべきことなり(東京電報)

戰爭責任者と削除

ライプチッヒ決定に於て審問すべき獨逸の責任者に就き聯合國と獨逸との間に新に妥協成立したる結果濠洲水艦の士官四十五名及び前獨逸皇太子、ヒンデンブルグ元帥ルーデンドルフ將軍等の惟者は戰爭責任者名簿より削除されたり(倫林電報)

伊內閣瓦解原因

郵便電信法案否決

伊太利代議院に於て郵便電信に關する法案否決されニッチ內閣瓦解せり右否決はカトリック黨の反對に據るものゝ首肯せらる(羅馬電報)

匈牙利軍隊集中

匈牙利はユーゴー、スラヴ國境に軍隊を集中し且つ將校を召集せり(倫敦電報)

墨國諸將軍反目

墨西哥に於ける革命に就き諸將軍間互に反目し遂に爆發の虞れあり前來政府は海陸軍隊五千名を墨西哥に派遣せり(倫敦電報)

カランザ殺害せらる

墨國大統領カランザ氏及び其の婿子アギイラル氏は九日夜半ベラクルーズの東方にて殺害されたり(桑港電報)

兩地間列車開通

井徑、經營

佛罷業蔓延の兆

佛國の總同盟罷業は砲延の兆あり(巴里電報)

濠洲全權公使考慮

濠洲聯邦政府は加奈陀に倣ひ米國に濠洲全權公使を送らんとする件に就き考慮中なり(シドニー電報)

獨過激軍援助か

維也納よりの來電に依れば獨逸のツエペリン飛行艦が波蘭に過激派軍を援助せんと希望し居れる獨逸將校を乘せ露國方面に向け飛行しつゝありしを自擊せるものなりと傳へらる(倫敦電報)

ブ市革命政府混亂

地方民過激派に反感を抱く

其筋著電＝ブラコユ、エンスクの革命政府內には日本軍撤退の風說に落かされ政權の瓦解に傾しして小田原評定二度に亘りしが遂に決する所なし又反過激派軍の來りて監獄を開放せんことを恐れ數百の政治犯人が射殺したるが一方支那側に對しては黑河の日本軍撤退方を交渉して拒絕せらるゝ等狼狽を極めつゝあり(ブドブ市に在る過軍は一手內外に過ぎざるを以て馬賊朝鮮人を募集する等軍隊の增加に努めつゝあり又物資甚だしく缺乏せるを以て附近村落より徵發しつゝあり黑龍鐵道は日本軍撤退以來列車の運行紊亂の極に達しバルチザンは遂に線路を占領して之に居住し鐵道材料を掠奪する等頗る狼藉を恐らざるなく加之解氷と共に橋梁の流失墜落の爲め故障續發し一般旅客の交通殆ど杜絕せり(東京電報)

西藏商議回答

坤方民に對して過激派に反感を抱くもの增加し反過激派の宣傳を軍隊內に頒布する者ありと

國政府破棄せざるに之に對し撤兵の交換として支那に不利なる條件を承諾せしめんとす、行の次第なれば政府は充分注意を怠る勿れと云ふ(東京電報)

誣妄も亦甚し

參議院建議案送達

參議院は大要左の如き建議案を可決し政府に送達せり(東京電報)

(一)北滿洲の中心東支鐵道及び哈爾賓の占領(二)內外蒙古の併吞(三)撤兵の交換條件の要求(四)先づ支那の北滿に增兵し外國の注意を避け機を見て南下せんとす(五)露國政府破棄せざるに之に對し撤兵の交換として支那に不利なる條件を承諾せしめんとす、行の次第なれば政府は充分注意を怠る勿れと云ふ(東京電報)

帝國議會召集期

開期は二十八日間

帝國議會は六月二十九日を以て召集し開期は二十八日間とすることに十四日の閣議に於て決定せり(東京電報)

兩大臣總裁任命

山縣氏關東廳長官に內定

十五日午後宮中にて左の通り親任式行はる可し

任鐵道大臣　元田肇

任司法大臣　大木遠吉

任國勢院總裁　伯爵　大木遠吉

任國勢院總裁　小川平吉

尙關東廳長官は前政務總監山縣伊三郎氏に內定し不日親任を見るに至る可し(東京電報)

國勢院の使命

憲法院の御諮詢を經たる國勢院令は例に倣ひ國勢院の名の下に重要官制は直に下原首相より上奏の手續を經て公布せらるべきが右は勅令として公布の必要なるが故に國勢院官制は寺內閣當時國勢調査局と合併するものとして

咸興の沿革

多望なる本線路の使命
咸興で行はるゝ開通式

南部咸鏡線は咸興驛に於て愈々本日を以て盛大なる開通式を擧行される事になつた。本線路は咸鏡線の一部であつて咸興に達する七十七哩の線路である。議會の工事は滿足成興に起り

新東方の面々 (下)

優勝旗の爭奪と番附面の入れ替へで興味を唆る今場所の相撲

本年一月入幕以來一躍に猛進したる射水川は高砂部屋の剛力士にして富山の出身當年正に二十七歳五尺七寸二十三貫の體格なれし突張りを以て唯一の攻手としてゐる當年三十七歳明治四十二年五月入幕以來一時は

名聲を博

したが老朽の悲しさには漸次墜下ゆられて今や僅かに幕内に姿を留めてゐる墨櫻川は友綱部屋の古參力士で富山の出身大尺の身長に廿七貫の體重を有し左四つ吊り出し及び枕獅子を以て漸く頭角を存してゐる大正二年五月入幕し

小結より

陥落して前頭六枚目となり更に陥落を重ねて十二枚目に漸く踏み止まつた若湊は前名稲の穂櫻高山と稱してゐた板木の出身で五尺七寸二十五貫の體格を有し高砂部屋に於て鍛成され押し切りを以て得意としてゐる大正八年一月入幕以來怒濤猛進して

前頭上席

に据つた白岩も僅か一場所を保つたのみで今や幕内末席に押下られて大いに沈んでゐる鬼車部屋の勇者として聞はれてゐるが三十三歳の齢は決して前途長しとする事は出來ない宮城の出身で身長五尺七寸體重二十八貫を有し押し切りを以て得意としてゐる

前頭筆頭

より漸次下がつた琴ケ浦は二十山部屋で大正元年三十二歳富山の出身で大正七年五月の入幕である五尺七寸の身長に二十八貫の體重を有し右四つ櫓投げに妙を得てはゐるが

餘り活躍

しない大の高は振分部屋の内では元氣力士として知られてゐるもの一歳に三十一歳の歳に達し乍ら幕尻筆頭に安んじてゐる幕は餘り氣の利いたものとは云ぬ左四つ押し切りの得意も振るへぬこと見られて

氣の毒な

感じもする出身地は青森で體重は二十五貫鶴ケ濱は五尺五寸に分である小結で張出された滑瀬川は秋田の川越で嬢ケ谷の弟子である武六藤の川國は出し若の川は九州の山湊は

東方に廻

された若葉は漸く入幕のホヤ〳〵ではあるが二十山部屋では可なり樂みを囑されてゐる新進花形力士である千葉の出身で當年二十六歳で身長五尺七寸、大正七年五月十四に進んだものだが其の押しには言ひ知れぬ力を有してゐる大正六年五月入幕してより

友綱部屋

でも古參株たる土州山も何だか振はず今や漸く幕内に名前を厚せてゐるに過ぎぬ土佐の出身で當年三十四歳の老朽組である五尺四寸の身長で二十三貫の體重は大兵ではないが其左四つの妙手では時々強敵を惱ましてゐる新四方から

名聲を博

したが老朽の悲しさには漸次墜下ゆられて今や僅かに幕内に姿を留めてゐる墨櫻川は友綱部屋の古參力士で富山の出身大尺の身長に廿七貫の體重を有し左四つ吊り出し及び枕獅子を以て漸く頭角を存してゐる大正二年五月入幕し

小結より

陥落して前頭六枚目となり更に陥落を重ねて十二枚目に漸く踏み止まつた若湊は前名稲の穂櫻高山と稱してゐた板木の出身で五尺七寸二十五貫の體格を有し高砂部屋に於て鍛成され押し切りを以て得意としてゐる大正八年一月入幕以來怒濤猛進して

前頭上席

に据つた白岩も僅か一場所を保つたのみで今や幕内末席に押下られて大いに沈んでゐる鬼車部屋の勇者として聞はれてゐるが三十三歳の齢は決して前途長しとする事は出來ない宮城の出身で身長五尺七寸體重二十八貫を有し押し切りを以て得意としてゐる

前頭筆頭

より漸次下がつた琴ケ浦は二十山部屋で大正元年三十二歳富山の出身で大正七年五月の入幕である五尺七寸の身長に二十八貫の體重を有し右四つ櫓投げに妙を得てはゐるが

氣の毒な

感じもする出身地は青森で體重は二十五貫鶴ケ濱は五尺五寸に分である小結で張出された滑瀬川は秋田の川越で嬢ケ谷の弟子である武六藤の川國は出し若の川は九州の山湊は

東方に廻

された若葉は漸く入幕のホヤ〳〵ではあるが二十山部屋では可なり樂みを囑されてゐる新進花形力士である千葉の出身で當年二十六歳で身長五尺七寸、大正七年五月十四に進んだものだが其の押しには言ひ知れぬ力を有してゐる大正六年五月入幕してより

友綱部屋

でも古參株たる土州山も何だか振はず今や漸く幕内に名前を厚せてゐるに過ぎぬ土佐の出身で當年三十四歳の老朽組である五尺四寸の身長で二十三貫の體重は大兵ではないが其左四つの妙手では時々強敵を惱ましてゐる新四方から

名聲を博

したが老朽の悲しさには漸次墜下ゆられて今や僅かに幕内に姿を留めてゐる墨櫻川は友綱部屋の古參力士で富山の出身大尺の身長に廿七貫の體重を有し左四つ吊り出し及び枕獅子を以て漸く頭角を存してゐる大正二年五月入幕し

小結より

陥落して前頭六枚目となり更に陥落を重ねて十二枚目に漸く踏み止まつた若湊は前名稲の穂櫻高山と稱してゐた板木の出身で五尺七寸二十五貫の體格を有し高砂部屋に於て鍛成され押し切りを以て得意としてゐる大正八年一月入幕以來怒濤猛進して

前頭上席

に据つた白岩も僅か一場所を保つたのみで今や幕内末席に押下られて大いに沈んでゐる鬼車部屋の勇者として聞はれてゐるが三十三歳の齢は決して前途長しとする事は出來ない宮城の出身で身長五尺七寸體重二十八貫を有し押し切りを以て得意としてゐる

前頭筆頭

より漸次下がつた琴ケ浦は二十山部屋で大正元年三十二歳富山の出身で大正七年五月の入幕である五尺七寸の身長に二十八貫の體重を有し右四つ櫓投げに妙を得てはゐるが

氣の毒な

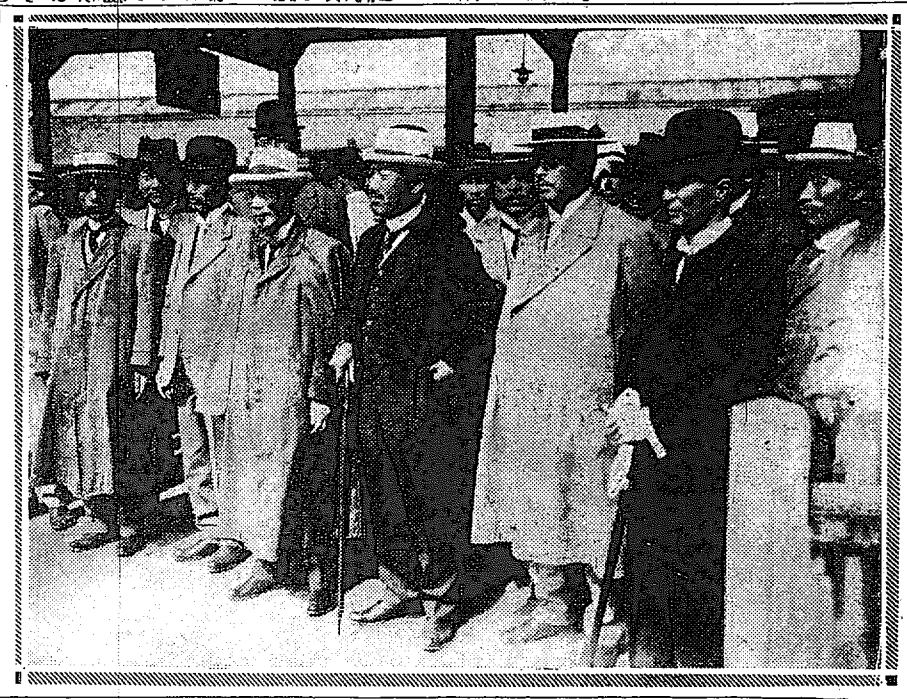
感じもする出身地は青森で體重は二十五貫鶴ケ濱は五尺五寸に分である小結で張出された滑瀬川は秋田の川越で嬢ケ谷の弟子である武六藤の川國は出し若の川は九州の山湊は

東方に廻

された若葉は漸く入幕のホヤ〳〵ではあるが二十山部屋では可なり樂みを囑されてゐる新進花形力士である千葉の出身で當年二十六歳で身長五尺七寸、大正七年五月十四に進んだものだが其の押しには言ひ知れぬ力を有してゐる大正六年五月入幕してより

友綱部屋

でも古參株たる土州山も何だか振はず今や漸く幕内に名前を厚せてゐるに過ぎぬ土佐の出身で當年三十四歳の老朽組である五尺四寸の身長で二十三貫の體重は大兵ではないが其左四つの妙手では時々強敵を惱ましてゐる新四方から



内地視察の途に就ける參與官郡守の一行（南大門驛にて）

女奇術師 (二)

松旭齋天露の告白

人としての苦しみと藝人としての誇りと變態なその性格と！

藝人としての天露の略歷

天露は東京の日本橋生である。所謂生粹の江戸ッ兒と云ふのであらう、

「天勝さんはショウジョウ（芸）が巧うございますから……」

なぞと東京訛の夫を賛嘆する。

幼さい時から

複雜した家庭に育つたため、華族の家で生ひ立つたり、蔦城の銀頭を勤むる男肌の父親なぞ、荒つぽい教育を受けたりして愈々奇術師の生活に入つたのである。十七の時には天勝と分に投じたのであつた。その當時は、田村成義氏から面倒を見て貰ひ

歌舞伎座に

出演して居た米人カマンに就て、ダンスの稽古を始めた。其時分はまだ日本橋區なぞから、女として藝人になつたものは殆んどなかつたので、世間の手前を憚ると云ふ意味から、わざわざ淺草に移つて、藝名を受た位だつた、それから

川上貞奴の

一座に入つて、明治座に勤めて居る間に、ダンスの稽古を勤んだ。それから天勝一座に加はつた。

九州や臺灣

にも行つたが、大正元年頃が彼女の全盛時代であつた。その後の天露はあまり振はなかつた。

今度京城に

來たのも、支那各地を巡業中、忠はしくなかつたので、安東縣で座員が四散すると云ふ噂を耳に達ひ、一時京城に落ち延びて

天露と云ふ

のは非常に改名した名前で、前は敏子と呼んでゐた、此の敏子と云ふ名前は、歌派の俳聞者として人も知る松崎大民氏が命名したのださうである。尤も女の天露の本名は吉川トシであるが、暇名のトシでは面白くない、

君は敏い女

だから敏と云ふ漢字に改めた方がいゝと天民氏が勧めたので、それ以來本名は敏と改め、藝名は敏子にしたのださうである。

天露の自祭

「相思春夢醒　喜り今宵」

東京大相撲

三日目取組

東京大相撲夏場所初日（十四日）

初日勝負

東 阿蘇嶽 — 久津川 — 大牛田 — 大門岩 — 鞍ケ嶽 — 琴ケ浦 — 若葉山 — 大友 — 浦風 — 土州山 — 湊川 — 矢の浦 — 鶴ケ濱 — 千葉山 — 大戸平 — 福柳 — 三杉磯 — 大錦 — 栃木山 — 大鳴門 — 紅葉川 — 大の鉄 — 錦川 — 雲竜 — 紅葉川 — 大の鉄 — 錦川

殺人強盜

犯人送らる

天津より長崎へ

大財喜び來り

大豺の襲來

紋糸の改名披露

牡丹のお蝶

臨脅髄膜炎の猖獗

上海に新患續

商業に失敗して縊死を遂ぐ

東京大相撲

日目取組

演藝案内

大正館

浪花館

明治館

寿館

親心

悪魔の囁き

人情活劇

悪魔の自殺

人間の悲劇

東七人男

悪魔の自殺

人間の悲劇

東七人男

悪魔の自殺

人間の悲劇

**東七人男

新大臣と新總裁

（上より）元田鐵道大臣、大木司法大臣、小川國勢院總裁

愈々事實に現はれた鐵道省と國勢院

元田肇氏新省大臣の椅子に就き

新總裁は『小が平』で鳴らした小川平吉氏

貴族院の大木伯出で司法大臣を承はる

二大臣一總裁の新任

約十億の巨資が投下され從業人員數萬を有する鐵道院が一省として獨立する噂は屢〻傳へられたが今回愈〻事實となつて現はれた。其新しい鐵道省最初の大臣の榮冠を擁ら得た元田肇氏は政友會の元老である同時に我國政黨界に於ても最も古き歴史と光榮を有する先輩で假令に席を列して以來爾後三十年皆一代の碩學であつたにせよ大分縣の一平民に生れ政黨界數年間に身を起して能く一代の名を爲すに至つたのは氏が遂に實業界に出して居た所以であつて又終始一貫した態度であらう。氏が大學を出でて代言事務を開始したのは年齢未だ二十幾歳の時で辯護士としても先進である。又明治廿三年大分縣から選出され衆議院に席を列して以來爾後三十年皆一回も落選の憂目を見ないに至つたのは氏が政黨界に於ても最も古き歴史と光榮を有する先輩で假令

逐鹿戰愈激甚

各候補の陣立如何

仁川學校組合議員選擧戰は愈々最後を快諾せる三非の堆氏は日無きなり二十名の各候補者は何れも鬱氣となつて運動を開始せり議員は既に數箇月前より嘱望されし武藤野の兩氏は各運動員の手に依りて配せられんとし運動頗る猛烈なるものあり更に數箇月前より嘱望されし人氣一變其の當落を危まれつゝあり新候補として最も有力なる中條榮藏氏の狀況より觀察すれば或ひは高點者に非ずやと云ふ趨否何れにも既はれ今村益次郎氏は漸く立候補を繫明し一千校の大形名刺の代表者の格を以て横斷一致の推擧を受けて悠々名乘を揚げたるが此外早稻田校友の應援も有り高橋氏の當選は確實なる豫想さる、民間有力者及び金融業者の會同して極力奔走を促し銀行業者其他有力者を以て成る火曜會の推薦を求め銀行側の貸出引締緩和の方法に就いて協議する處あるべしと沿に就き某消息通の談に依れば太郎市場は幸ひにして未だ打擊を被る甚だしからず今日に於ては年末に向て異狀の騷ぎものなしと雖も内地經濟界の益々悪化則に入るあらんか其の影響を蒙るに至らざるべき論なく若し斯る時期に於て金融業者の極端なる引締に會せんか前途の形勢測り知るべからざるものあらん藤川知事の幹旋は機宜の措置と云はんよりは寧ろ明の運れたるの觀なくんばあらず云々（京城）

新候補者

候補者は既に出揃ひ愈々戰の火蓋を切つて落されたるの觀なくんばあらず云々（京城）

絶對辭退

宗一氏藤井八重蔵氏等各相當の勞力を盡しつゝあるが故議員側に於ては形勢を白神氏の河野氏に比して得票の數を爭ふに在るは勿論なり混沌氏は慶田組の一致せる努力に依つて再選疑ひなく後者は氏が充分の餘裕ありて地盤は日に擴大されつゝあり平山氏の得票は既に固定せるものにして

充分なり

云ふ其他隔

人氣一變

其の當落を危まれつゝあり新候補として最も有力なる中條榮藏氏の狀況より觀察すれば或ひは高點者に非ずやと云ふ趨否何れにも既はれ今村益次郎氏は漸く立候補を繫明し一千校の大形名刺の代表者の格を以て横斷一致の推擧を受けて悠々名乘を揚げたるが此外早稻田校友の應援も有り高橋氏の當選は確實なる豫想さる、民間有力者及び金融業者の會同して極力奔走を促し銀行業者其他有力者を以て成る火曜會の推薦を求め銀行側の貸出引締緩和の方法に就いて協議する處あるべしと沿に就き某消息通の談に依れば太郎市場は幸ひにして未だ打擊を被る甚だしからず今日に於ては年末に向て異狀の騷ぎものなしと雖も内地經濟界の益々悪化則に入るあらんか其の影響を蒙るに至らざるべき論なく若し斯る時期に於て金融業者の極端なる引締に會せんか前途の形勢測り知るべからざるものあらん藤川知事の幹旋は機宜の措置と云はんよりは寧ろ明の運れたるの觀なくんばあらず云々（京城）

金融對策協議

藤川豊北道知事の幹旋は既に日に驗歷に鑑みんとし市場の金融は益々窮迫の度を加へつゝあるが藤川豊北道知事は現狀に鑑み大邱市場の混亂を未然に防がんと十四日大邱市場有力者及び金融業者の會同を求め銀行側の貸出引締緩和の方法に就いて協議する處あるべしと沿に就き某消息通の談に依れば太邱市場は幸ひにして未だ打擊を被る甚だしからず今日に於ては年末に向て異狀の騷ぎものなしと雖も内地經濟界の益々悪化則に入るあらんか其の影響を蒙るに至らざるべき論なく若し斯る時期に於て金融業者の極端なる引締に會せんか前途の形勢測り知るべからざるものあらん藤川知事の幹旋は機宜の措置と云はんよりは寧ろ明の運れたるの觀なくんばあらず云々（京城）

絶對辭退

に付理事高橋氏は慶田組の一致せる努力に依つて再選疑ひなく後者は氏が充分の餘裕ありて地盤は日に擴大されつゝあり平山氏の得票は既に固定せるものにして

大多數を

占むるは云ふ迄もなく秘密に中島氏と抗せる谷野議員は山口縣人會一部の推薦に依り勢力旺盛山（仁川）

小學校擴張

釜山氣方面は近來内地人の居住者著く增加し現に就學兒童百二十九人に達し少くも三學級以上の兒童を收容する校舍の必要あり尚且つ同方面は各種工場の集團地として將來益々戶口劇增の徴候を示し加之醫師の勢力を憚まぬのである

◇釜山學校組合には最近八年度起債により數箇所に亦

全州學校組合議員選擧形勢

◇全州學校組合議員四名の補缺選擧は來たる五月二十日行はるべきなるが由來學校組合議員は一種の名譽職なるものは唯一の自治制であり議員たるものは民間を代表する機關であるところから從つて立候補者も大いに力瘤を入れ市民又之が選擧に當り熱狂時期

全州より

支局一記者

◇組合費の重課に就ては管理者及び組合議員の頭を悩ましつゝある今回の補缺選擧に是非一議員を推して代表せしめ職工組合の存在を認めさるを必要とする必要ありと又

河野別莊の牡丹園開放

十六日の日曜から二十三日の日曜が最後

仁川山手町高麗に譽ゆる河野竹之助氏別莊の牡丹園は京仁地方に於ける最も秀でたるものにして毎年賞觀せられつゝあるが本年も來る十六日の日曜より二十三日の日曜頃にかけ最も見頃なるべきを以て同氏は別に唆き部ともなるべきを以て同氏は別莊並に牡丹園を開放して一般の隨意觀賞に充つべしと公園敬愛の徴を表はしき牡丹の姿を賞するも可ならずや（仁川）

財務主任會議

江原道廳に於ては來る十九日より三日迄五日間管内各郡財務主任會議を開催すべきが會議要項は電報電話下の打合せ其他事項なり（春川）

金融聯合總會

江原道金融組合聯合會に於ては五月三十一日を以て聯合會の總會を開催すべく翌三四兩日は本會の協議會を開催すべく翌三四兩日は本會の總會を開催する筈（春川）

國際館株公募

釜山

常務委員認可

釜山

本材支店設置

釜山

店員表彰準備

釜山

少壯記者團

釜山

青葉の頃

川仁

四平街より

子爵祝祭

金融對策協議

全州學校組合議員選擧形勢

國際館株公募

常務委員認可

本材支店設置

店員表彰準備

少壯記者團

河野別莊の牡丹園開放

財務主任會議

金融聯合總會

小學校擴張

全州より

金融對策協議

絶對辭退

大多數を

充分なり

人氣一變

新候補者

逐鹿戰愈激甚

將棋新手合（完）

於本舗西本願寺　幸手將棋大會席上

先　△蒔田　甚藏（本舗）
▲菊　康次郎（本舗）

△持駒　歩

△持駒　歩

△持駒　歩

商況

株式

東京現株特電

十五日中値　▲後場△下落

東京電燈	一〇〇〇〇〇	抑込 △二八〇〇
同新	一五〇〇〇〇	△四七〇〇
東京瓦斯	一〇〇〇〇〇	△四八〇〇
同新	一五〇〇〇〇	△五〇〇〇

大阪株式　至急電報

十五日　後場寄付

大阪紡	二三四〇〇〇	二三七〇〇
同新	二〇七九〇〇	二三〇〇〇
同船	一二六〇〇〇	一五五〇〇
同新	七一〇〇〇	七二〇〇
同紡	八九〇〇〇	八九〇〇
同新	一〇五〇〇〇	一〇五〇〇
同紡	一〇六〇〇〇	一〇八〇〇
東洋紡	一四一〇〇〇	一四一〇〇
東洋紡新	七〇二〇〇	七〇二〇〇
東洋紡取	一〇八〇〇〇	一〇八〇〇

安東現株特電

十五日　▲印勝賞　△印下落

京城電氣	一七〇〇〇	抑込 △二〇〇〇
京城株	三三〇〇〇	寄付 △二二〇〇
同新	三二〇〇〇	廿五日限出来高
同銀	三〇〇〇〇	△三二〇〇
同新銀	三〇〇〇〇	寄付 △二七〇〇
朝鮮紡	三三〇〇〇	廿五日限出来高
同新	三三〇〇〇	止寄付 △三〇〇〇
東洋紡	三三〇〇〇	枚
同新	三三〇〇〇	枚
東亞	三三〇〇〇	枚
大正土地	三三〇〇〇	枚
鮮拓	三三〇〇〇	枚
同新	三三〇〇〇	枚
電興	三三〇〇〇	枚
電興新	三三〇〇〇	枚
東電	三三〇〇〇	枚
東電新	三三〇〇〇	枚
先限出来高		

東京先物別報

（十五日前場）郵船一五三〇〇〇▲新七一一〇〇▲東汽四六〇〇〇▲商船八六〇〇▲富士紡一二五五〇▲鐘紡一七九五〇▲日清紡一〇七八〇▲東京毛織九九〇〇〇近鐘商店入電

東京現物別報

（十五日午前）東株二一七〇〇〇▲郵船一五〇〇〇▲新七一〇〇〇付き即ち前日に比し郵一三〇〇〇〇（高松商會入電）

氣直りか否か

ホロ落しにして禁止せられて居らなかつたならば這回の如き大混亂に陥ることは一般に悉起せざりしなるべしと思はれる次第である。之が解禁を要求するの必要を生じて各取引所の仲買は結局つて之が解禁を當局は之が可否に就て調査の歩を進めつゝあるも未だ解禁するに至らざるは遺憾の極である。意なく兩建證拠金の全部撤廃の決断すべき意覺なりと傳へられる。居つたのであるが當局は之が可否に就て調査の歩を進めつゝあるも未だ解禁するに至らざるは遺憾の極である。意なく兩建證拠金の全部撤廃の決断すべき意覺なりと傳へられる。

上取と樂觀說

上海取引所は這度の惡落にて殆ど全滅に近き大打撃を被むるも同取引所は佛込資本額金に近き日露六千萬圓の損失を招くるやの說あるも崩落はあらざるかの觀測なる崩落はあらざるかの觀測なる漸く一部に行はるゝに至れり

郵船株割安

同株が百五十圓と云へば次期の配當四割を當分は持ち越すべきに減率を告ぐるとしても一割の好利廻りに當れるに其の實質創立事務關係者を歷訪して運動して居たが十四日の發起人會の結果を聞くのみに一株に當る五百五十圓位の割に當るのすれば百五十圓位の割に當るのすれば最も妙なるに結果を聞くの殆んど全部承認さる安の通頃にあるのすれば同株が底落しても同株の下が他の株が底落しても同株の下が他の商品に同じ何とも研究中である。

鐘紡も九圓安

鐘紡は要に綿糸安の反響を受け崩落に崩落を重ね大株を同一程度の値頃に驚落せんとの感を生ずるも十三日以來綿糸高に連れて二百五十五、六處に迄して二百五十五、六處に迄して二百五十五圓に八見當迄引返して二百五十五圓に八見當迄引返して二百五十五圓に八見當迄引返

劍舞（五）

碧瑠璃園 挿畫 森田ひさし

嫁菜菊

『何うしませう〳〵』

菊枝は巨櫃から出した夜著を投げるやうに下へ置くと、その上へ身を伏せて、忍び泣きに泣きつた

欣作はぼんやりと點る電燈の下に、手を叉んで坐つて居た。年の割に悉の多い額の上へ憂鬱の氣が流れる

『お母さまの御機嫌があんなんだやや、さてもお暇の赤ン坊を無に散り落すことは爲きまいと思ひますから、わたし明日は實家へ歸つて實家のお母さんに相談をして見ます、そんな事をしては角が立つだらうと思つて今日まで堪忍しましたけれど、段々お腹が大きくなつて來ますし、何時まで秘して居ることも出きまいと思ひますから、實家のお母さんからお媒介さんにつて下すつては困ります』

『何もお前が結婚をしなくつたつて可いのよ、菊枝さへ好けりゃ、わたしなんぞ何樣になつたつて好いのだからねい、どうせ宿縁へ足を突込んで居るんだもの、そんなに苛めてくれなくつたつて、今にお暇乞をしてあげますわよ』

『お母さん、あなたー』

欣作が何か云はうとするのをよくも聞かないで、根太も拔けるほど強い足音を立てながら、お孝はみしく降りて行つた

『あなたが話し下されば、それに越したことはありません、氣に入るやうと思つて、精分心を盡したんですけれど、今夜の御機嫌では、とてもお心持ちがよくして下さる時はあるまいと思ひます、お腹に赤ン坊さへ居ませんでしたら、わたし、何うにでも……』

菊枝が喘ぶやうに斯う云ひかけたとき、隣の横坊の上り口から

『わたしが生きて居て可いない樣に成るやうと思つたら、何時でも死んで上げますよ』とお孝は怒鳴つた、

菊枝は彼女がすやくと寢入つたのを見屆けて、そつと按摩の

『お母さまの御說は、お母さまの御說、手を離したのであつたが、夫れが得たいと考ります、でございませんと、わたくし斯うしてだ、鏡臺をして居てわたし等の暇りますのが、鏡の臺にでも坐つて居りますやうに、辛くもあり、悲しくもありますので、とても命が續くまいと思はれます』

菊枝は非常な決心をもつて云つた、夫婦が自由に議話を交すことが爲きるのは、二階の寢所へ入つてからであつた、夫れも欣作が枕についてのち、物の一二時間もお孝の按摩をして、彼の女が生鼾もなく眠つてから、そつと二階へ上るのが例であつた、欣作は菊枝の言ふを悉く有理と聞いて

『さうだねい、今夜の樣子からお孝へて、お母さんのお心が急に折れやうとは思へまいねい、と云つて六月にもなつて腹を、其まゝにして置くことは爲きまいから、早川のお母さんにお願ひして、何とか始末を附ける他に仕方がない、然し、お前がお話するのは好くないから、わたしが明日の暇りに立寄つて、慇懃お願ひすることにしやう、お前は決して心配してはよくないか』

『お母さんの暴言なんぞ誰が云ふものですか、孝が通りを爲すつて可いのよ、わたしなんぞ何樣になつたつて好いのだからねい、どうせ宿縁へ足を突込んで居るんだもの、そんなに苛めてくれなくつたつて、今にお暇乞をしてあげますわよ』

『お母さん、あなたー』

欣作が何か云はうとするのをよくも聞かないで、根太も拔けるほど強い足音を立てながら、お孝はみしく降りて行つた

皮膚科 病床附 病室数 一七 電話 一壹

科 京城明治町二丁目 佐藤醫院 (入院隨意)

(診察夜九時迄)

俳壇

日報詞花

花を觀よさて（下）

芳宙

…牛耳堤こ加九里へ…

◇牛耳堤の花共の樣は、亜麻に出白すれば強想した程ではありませんでした。然し牛耳堤一帶の花を中心とした景趣は、鄙の及の樣女形と働んだ明かな色をした北漢山と鏡の山の樣女形の景趣は、牛耳堤より宜しくはないかと思ひました、然し此處に坊主の樣に花を抽き裸本のその鵲の巣を花に沈む一區あり鵲が降り注ぐ花下の蹟さに水は清たて流れ風なる程に花一齊に搖き鵲が彈き滑りかへつて居た樣が遊ぶに蹟くなり、どこなく陰暗な氣が漂ふ、何だか迫つて來るやうだと思つて居ると忽ち風が風々と砂塵を卷いて吹き過ったので、客車の窓が ガタ〳〵と鳴り出し、體で荒涼呆尺に見ゆる居た細も家も丘も山も、たちまち、巻く霧の中に埋れて了ひました。

◇雨降く霧れたる夕べ（句）

たけける風雨の城へ咲く花一樹

暮色まつはる柳の空星ぶ（樂）